

1 学校評価アンケート調査対象及び実施期間

児童(3～6年生)、保護者、教職員(令和元年12月実施) ※すべて無記名

2 学校評価アンケート調査結果及び分析

(回答者数) 児童261名 保護者424名 職員17名

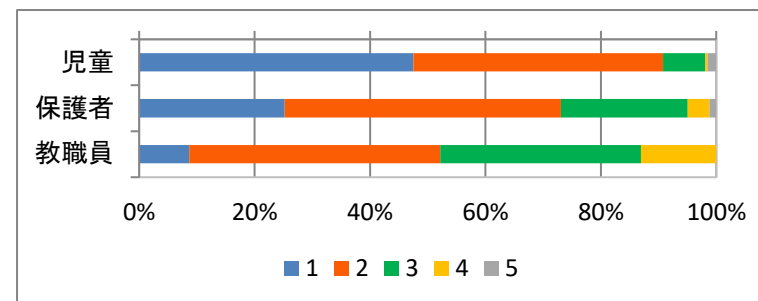
(回答方法及び結果の表示方法) 各設問に対し以下のような項目で回答してもらい、その数を集計し、全体数に対する(%)で表示した。

1よくあてはまる 2ややあてはまる 3あまりあてはまらない 4あてはまらない 5よく分からない

※判定は、1+2の合計が90%以上AA, 80%以上90%未満A, 70%以上80%未満B, 60%以上70%未満C, 60%未満D

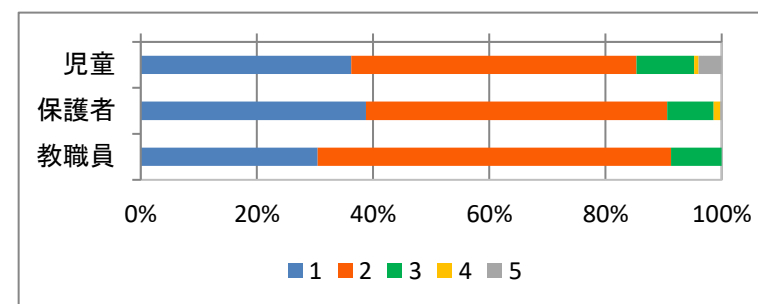
(1)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	友達や保護者、地域の人に対しあいさつをしている。	48	43	7	0	2	91	AA	↗
保護者	子どもは、保護者や地域の人に対しあいさつができるようになってきている。	25	48	22	4	1	73	B	↘
教職員	子どもたちは、友達や保護者、地域の人に対しあいさつができる。	9	43	35	13	0	52	D	↗

児童は、特に校内においてはしっかりあいさつができています。教員は、登校時のあいさつにやや不十分さを感じている。校外で顔見知りの保護者や地域の方にあいさつをするよういっそう呼びかけたい。



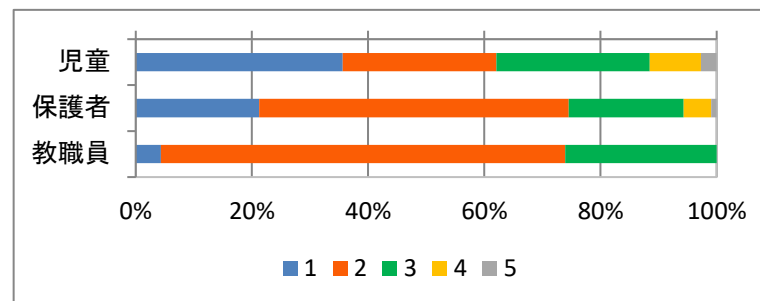
(2)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	友達に対して優しい声かけや、思いやりの心をもっている。	36	49	10	1	4	85	A	↗
保護者	子どもは、人に対し思いやりやさしい気持ちをもっている。	39	52	8	1	0	91	AA	→
教職員	子どもたちは、人に対する思いやりや、やさしい気持ちをもっている。	30	61	9	0	0	91	AA	↘

昨年度より、児童のできると答えた割合が10%ほど伸びた。道徳を中心に、人に対して思いやりをもつことを指導してきた成果であるとうれしい。引き続き、指導していきたい。



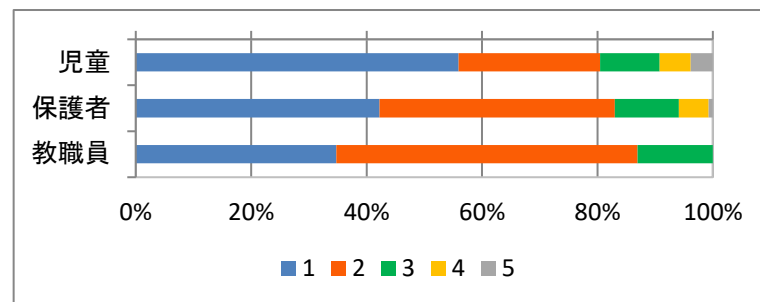
(3)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	発言で、自分の考えや思っていることを言うことができる。	36	26	26	9	3	62	C	↘
保護者	子どもは、自分の考えや思いを伝えられるようになってきている。	21	53	20	5	1	74	B	↘
教職員	子どもたちは、自分の考えや思い、願いを伝えることができる。	4	70	26	0	0	74	B	↗

昨年度とほぼ変わっていない状況である。発言する児童は増えてきていると感じるので、間違えても言うことに価値があることを伝えて、のびのびと意見が言えるようにしたい。



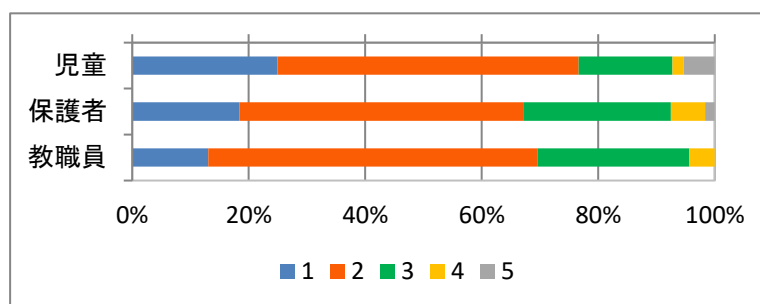
(4)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	体育やかけ足、外遊び検定など、体をじょうぶにする活動に楽しく取り組める。	56	25	10	5	4	81	A	↘
保護者	子どもは、体育や遊び等を通して、体を鍛える活動に楽しんで取り組んでいる。	42	41	11	5	1	83	A	↗
教職員	子どもたちは、体育や行事、体づくり運動、遊び等を通して体を鍛える活動に楽しく取り組んでいる。	35	52	13	0	0	87	A	↗

児童は昨年度より微減した。引き続き外遊びを中心に体を動かして鍛えることの大切さを伝えていきたい。



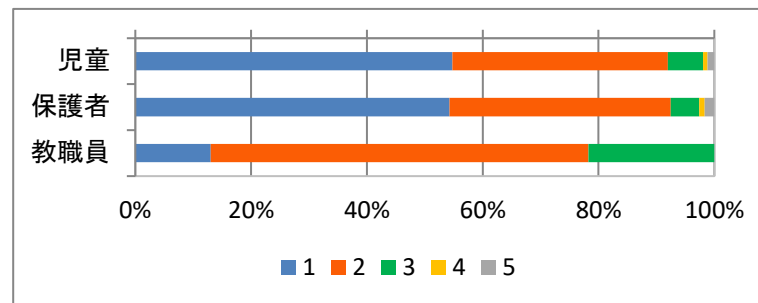
(5)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	正しい言葉遣いや時間を守ることができる。	25	52	16	2	5	77	B	↗
保護者	子どもは、正しい言葉遣いや時間を守るなど基本的な社会性を身に付けてきている。	18	49	25	6	2	67	C	↘
教職員	子どもたちは、正しい言葉遣い、時間を守るなどの基本的な社会性を身に付けてきている。	13	57	26	4	0	70	B	↘

学校で身につけるべき社会性については、機会を捉えて指導していく。家庭と連携していく必要がある部分も少なからずあるので、ともに育てていく意識を大切にしたい。



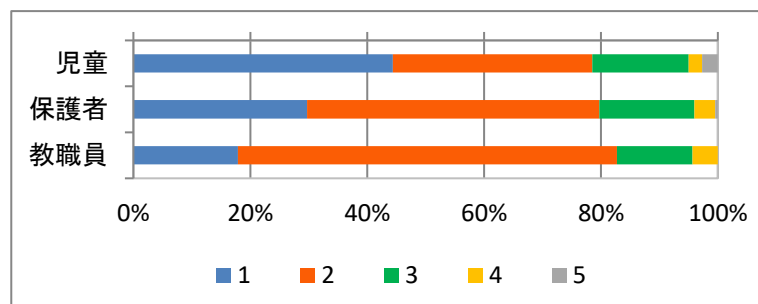
(6)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	係・委員活動などの自分の仕事やそうじにしっかり取り組んでいる。	55	37	6	1	1	92	AA	↗
保護者	子どもの係・委員活動等の自分の仕事に進んで取り組んでいる。	54	38	5	1	2	92	AA	↗
教職員	子どもたちに係・委員活動、清掃、自分の仕事に対する取り組み方が前向きになるよう指導している。	13	65	22	0	0	78	B	↘

児童・保護者に対し、教員の数値が低い。一人一人の居場所をつくり、褒めて伸ばしていくためにも、しっかり指導できるよう働きかけたい。



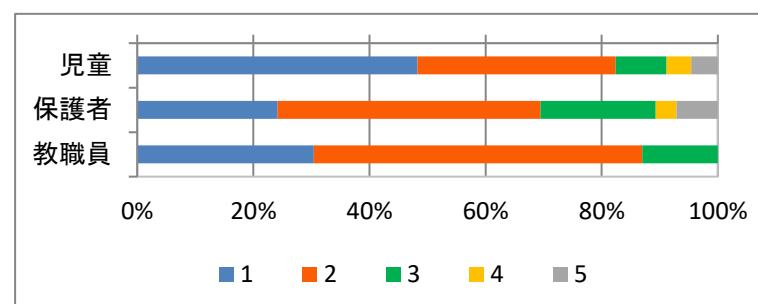
(7)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	授業に進んで参加している(取り組んでいる)。	44	34	17	2	3	78	B	↗
保護者	子どもは、基礎的・基本的な学力を身に付けてきている。	30	50	16	4	0	80	A	↗
教職員	子どもたちに基礎的・基本的な学力が身に付くような授業をしている。	18	65	13	4	0	83	A	↘

昨年度より児童・保護者は微増、教員は微減という結果であった。「授業で勝負」を合い言葉に、力が付くような指導を継続していきたい。



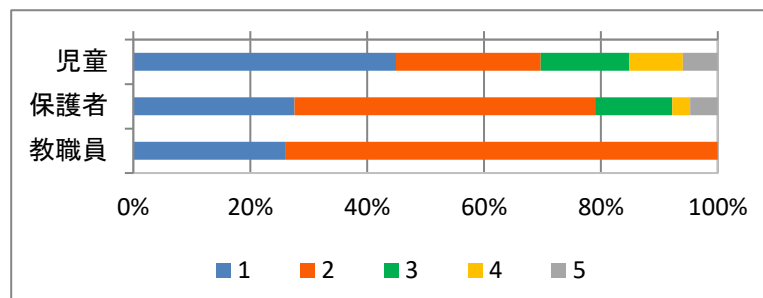
(8)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	授業は分かりやすいと思う。	48	34	9	4	5	82	A	↗
保護者	子どもは、授業が分かりやすいと言っている。	24	45	20	4	7	69	C	↗
教職員	子どもたちにとって分かりやすい授業をめざし、工夫を取り入れている。	30	57	13	0	0	87	A	↗

児童・教員はAに対し、保護者はCと差がある。家で児童が「授業がよく分かった」という回数が増えるよう、引き続き工夫を取り入れた授業を進めていく。



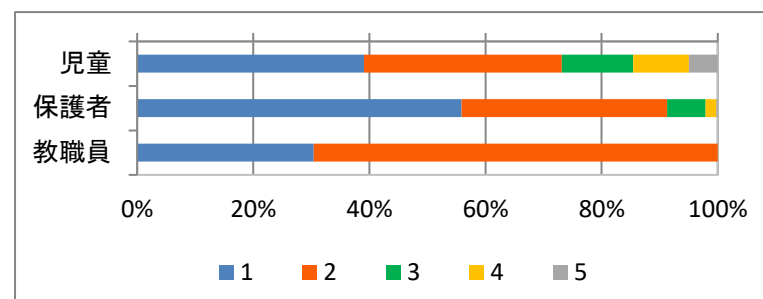
(9)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	授業の話し合いをしたり教え合いしたりするのは楽しいと思う。	45	25	15	9	6	70	B	↘
保護者	学校は、子どもの意欲を高めたり子ども同士が学び合えたりする授業づくりを心がけている。	28	51	13	3	5	79	B	↗
教職員	子どもたちの意欲を高めるために、かかわり合いをしたり、学び合いを取り入れてたりしている。	26	74	0	0	0	100	AA	↗

新指導要領では、「主体的で対話的で深い学び」をするために学習形態の工夫が求められている。その学び合った形態で学習することの価値を分かってもらえるよう努力していく。



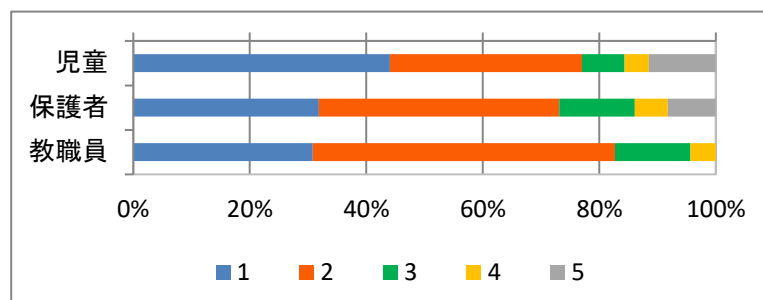
(10)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	毎日学校へ来るのが楽しい。	39	34	12	10	5	73	B	↘
保護者	子どもは、楽しく学校に通っている。	56	35	7	2	0	91	AA	→
教職員	子どもは、富士松東小へ楽しく通ってきていると思う。	30	70	0	0	0	100	AA	↗

4人に一人が素直に楽しいと思えていないことは大変残念である。悩みごとや心配などがあるかもしれない。一人一人をよく見て、その思いに寄り添っていきけるように、気を引き締めて指導していきたい。



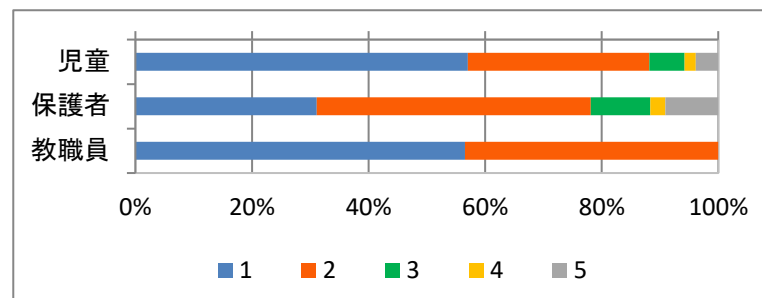
(11)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	先生は、困った時や悩みがある時に相談に乗ってくれる。	44	33	7	4	12	77	B	↗
保護者	子どもは、困った時や悩みがある時に先生が話を聞いてくれると言っている。	32	41	13	6	8	73	B	↗
教職員	子どもたちが困った時や悩みがあるような時、共感的に話を聞いてあげている。	31	52	13	4	0	83	A	↘

困ったときや悩んでいるそぶりが見られるときには、教師側から進んで声をかけるように指導していく。他の質問に対して、「分からない」が多いのは、そういう場面に出くわしたことがないので、答えられないという意見を耳にした。



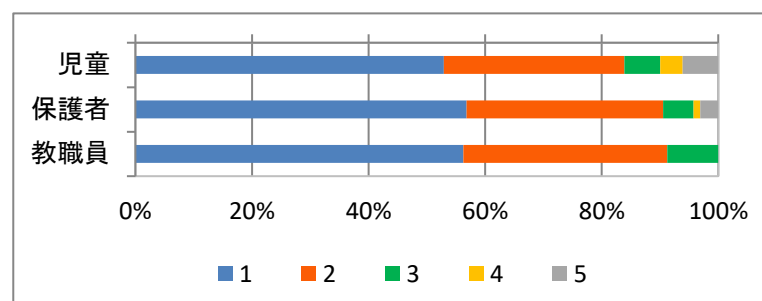
(12)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	友達を仲間はずれにしたり、いじめたりしないよう心がけている。	57	31	6	2	4	88	A	↘
保護者	学校・先生は、いじめを許さず、一人一人を大切にしている教育を進めている。	31	47	10	3	9	78	B	→
教職員	仲間はずれやいじめを許さず、一人一人を大切にしようとして心がけている。	57	43	0	0	0	100	AA	→

教員一人一人がいじめは許さないという信念のもと指導をしていくことを確認したい。いじめが起きてしまったときは、すぐ対処し、適切な指導をチームで行い、再発防止に努めるとともに、しっかり保護者に説明していく。



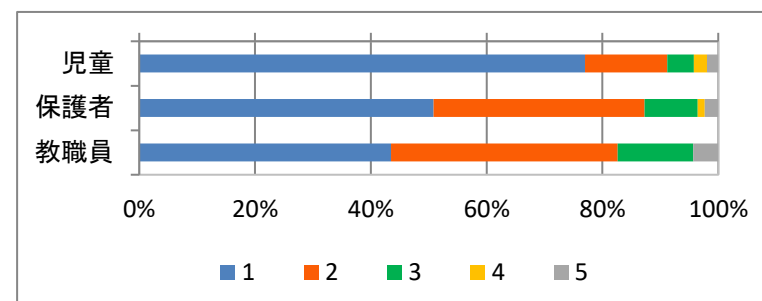
(13)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	先生は、自分やクラスみんなががんばったことをほめてくれる。	53	31	6	4	6	84	A	↘
保護者	先生は、子どものよさや努力したことなどを認めようとしている。	57	34	5	1	3	91	AA	↗
教職員	子どもたちのよさや努力したことなどを進んで認めようとしている。	56	35	9	0	0	91	AA	↘

この設問で初めて保護者がAAの評価となった。引き続き、褒めて伸ばすことを大切にして指導していきたい。それが、児童にきちんと伝わるようにしたい。



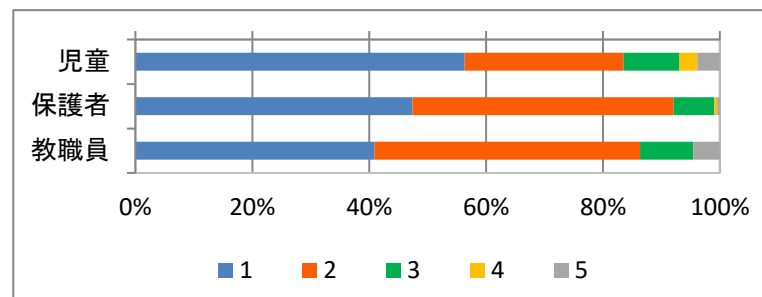
(14)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	学校の中に、気さくに話ができる友達がいる。	77	14	5	2	2	91	AA	↘
保護者	学校・先生は、保護者に対して誠意をもって対応をしたり相談に応じたりしている。	51	37	9	1	2	88	A	→
教職員	保護者に対して誠意をもった対応をしたり相談に応じたりしている。	43	39	13	0	4	83	A	↗

児童が友好的な友達関係が出来るよう、環境づくりに努めたい。また、引き続き保護者から信頼を得られるような誠意ある対応を職員に呼びかけていきたい。



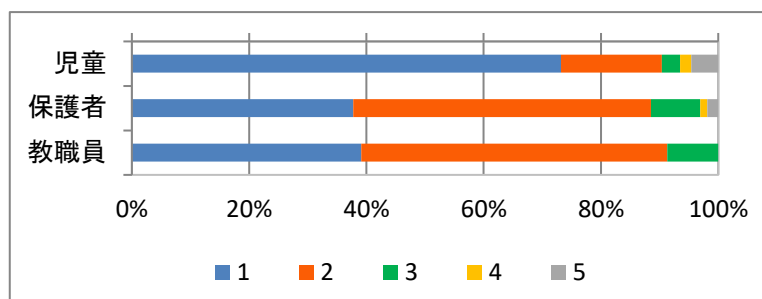
(15)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	学校であったことを家で話したり、連絡プリントきちんと渡したりしている。	56	27	10	3	4	83	A	↘
保護者	学校は、授業や学校行事を参観する機会を設けたり、たより・ホームページを通して必要な情報発信に努めたりしている。	48	45	7	0	0	93	AA	↗
教職員	保護者に対して学年だより、学級通信、連絡帳等を通して必要な情報を伝えたり連絡したりしている。	41	45	9	0	5	86	A	↗

教員の数値が昨年度より少し向上した。保護者と必要な情報をしっかりと共有できるように引き続き努めていけるようにしたい。



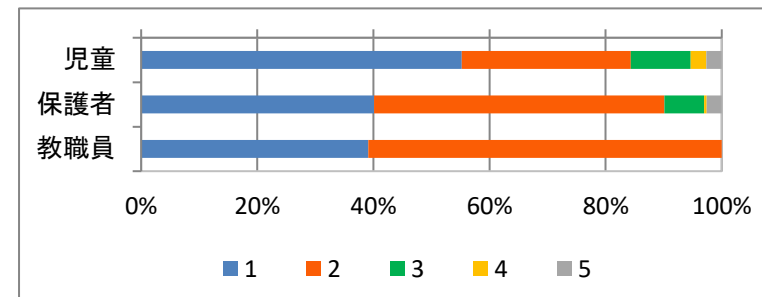
(16)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	交通安全に気を付けて登下校している。	73	17	3	2	5	90	AA	↘
保護者	学校は、交通安全や防犯指導、安心・安全な環境づくりなどを進めている。	38	51	8	1	2	89	A	↗
教職員	不審者対策、登下校の交通安全指導や、児童が安心・安全な教室環境づくり(施設整備)などを行っている。	39	52	9	0	0	91	AA	↗

児童の登下校の仕方については時々地域からもご意見をいただくことがあり、その都度指導している。年間交通事故ゼロをめざし、今後も声かけをしていく。



(17)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	病気やケガに気を付けたり、好き嫌いなく給食を食べたりしている。	55	29	10	3	3	84	A	↘
保護者	学校は、子どもが健康な生活を送ることができるように指導している。	40	50	7	0	3	90	AA	→
教職員	子どもたちが健康な生活を送ることができるように給食指導、保健指導に努めている。	39	61	0	0	0	100	AA	↗

三者ともまずまずの結果を得た。引き続き、病気やけがなどの未然防止や給食の残食を少なくする声かけをしていく。



(18)	質問内容	1	2	3	4	5	1+2	判定	昨年比
児童	宿題等、家庭学習に取り組むことができない。	57	26	10	3	4	83	A	↗
保護者	子どもは家庭学習(宿題)に取り組むことができている。	39	43	13	5	1	81	A	↘

家庭で机に向かうことが少ないというのが、本校児童の弱点の一つである。遊びやゲーム前に机に向かい済ませてしまうことを引き続き呼びかけて習慣化できるようにさせたい。

